

第 237 回 昭和の森自然観察会

飛べ トノサマバッタ

藤田浩二(茂原市)

日 時： 2011 年 9 月 11 日 (日) 13~15 時 天候：晴れ
参加者： 20 人 (子ども 12 名, 大人 8 名) 指導員 18 名
担当指導員：花島伸美, 山下美佐子, 藤田浩二

当日は午前中にどしゃ降りの雨が断続的に降ったためか、参加者の数は予想より少なめでしたが、こじんまりと少人数の 3 班に分かれておこなわれました。

今回のテーマは、下記のようなこととしました。

- ① 昭和の森に生息するキリギリス・バッタ・コオロギ類の種類が、多様であることを観察する。
- ② 草原・水辺・林縁など、環境の違いにより生息している種類にも変化があることを観察する。
- ③ バッタ類の耳や呼吸器官などの、体のしくみの不思議さを観察する。
- ④ 身近なバッタ類を、追いかけて・触れて、身近な自然で遊ぶことの楽しさを体験してもらう。

冒険広場付近は明るい草原であり、クルマバッタ・クルマバッタモドキ・ショウリョウバッタ・オンブバッタ・エンマコオロギ・ツヅレサセコオロギ等を見つけました。耳に相当する器官が、バッタ類では後ろ足の付け根にあり、コオロギ類では前足の関節付近にあることを実物で確認すると、大人の参加者も「へー！！」とびっくりでした。トノサマバッタとクルマバッタは外見では識別しづらいですが、クルマバッタの名前の由来といわれる、後羽の紋様をみて「なるほど！！」でした。アナバチの仲間がウスイロササキリを狩っていたり、クモの巣にかかったトンボをクモが食していたりなど、生き物の 食う 食われるの場面にも出会えました。

調整池付近では、コバネイナゴ・ハネナガイナゴが沢山見つけられました。イナゴは、日本の食文化にも大いに関連があることも理解してもらうために、イナゴの佃煮を試食してもらいましたが、予想以上の星二つ半くらいの美味評価でした。ここでは、バッタ類以外にも沢ガニ・ヤマカガシ・オニヤンマの産卵など、ウェットランドならではの生態系の豊かさを観ることができました。

ハナショウブ園付近での林縁では、小枝の先にしがみついて死んでいるフキバッタが随所にみられました。犯人は「エントモファガ・グリリ」という糸状菌で、この菌に冒されたバッタは孢子が飛びやすいように、高みへ自ら登りつめてから死ぬとのこと。不思議ですね。

終了時の参加者の感想としては、「楽しかった」「虫の 食う 食われるの生活が見られて面白かった」「子どもがのびのび自然に親しめてよかった」などの感想をいただきました。



トノサマバッタ

